

「超スマート社会」の到来と地歴・公民科の果たす役割

北海道高等学校教育研究会地歴・公民部会長
(北海道札幌英藍高等学校長)

中坪俊博

今年 6 月下旬、「第 3 期教育振興基本計画の策定について」という文部科学事務次官からの通知があった。これは、教育基本法に基づく 2030 年以降の社会の変化を見据えた教育政策の在り方を示すもので、国会にも報告されている。その詳細は省くが、要するに「人生 100 年時代」や「超スマート社会 (Society5.0)」の到来に向け、生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」の最大化を今後の教育政策の中心課題に据えて取り組む必要があると謳っている。

ガラケーで満足している私にとっては、「超スマホ社会」と勘違いしそうなネーミングで、これは何だろうと文科省のホームページを覗いてみた。すると、架空の家族増田家をモデルに、夢のような 2035 年の未来社会像が描かれている。それによると、ネットワークの高度化、ビッグデータ解析技術や人工知能 (AI) 等が発展し、サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) が高度に融合した社会を「超スマート社会」といい、それらのシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立させる人間中心の社会を「Society5.0」というらしい。5.0 は、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く 5 番目の社会を指す数字で、「第 5 期科学技術基本計画」(内閣府)において、我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されている。IoT とビッグデータを擁する AI、そしてロボットが社会の隅々で活躍し、少子高齢化や雇用問題、グローバル化、地方の過疎化や貧富の格差、環境問題など、多くの課題の克服が期待できるというまさに夢のような社会の到来であり、私もできるだけ長生きして、描かれているような質の高い豊かな生活を享受したいと思うのである。

さて、この春公示された新学習指導要領が、「超スマート社会」を睨んでいることはご察しのとおりであり、検討が続いている高大接続改革は「超スマート社会」で活躍できる力をつけさせるためであることも推察できる。AI が発展しても、創造性、協調性が必要な業務や非定型な業務は、将来においても人間が担うといわれ、企業が求める人材も、コミュニケーション能力、主体性、チャレンジ精神、協調性などが人物選考の上位に来る。教育の目的は矮小化されるべきではないが、必要な力はつけさせなければならない。

また、140 年ぶりの民法改正により成人年齢が 18 歳に引き下げられ、主権者教育と共に消費者教育の充実が公民や家庭科に求められ、指導の充実が喫緊の課題ともなっている。さらにこれらに加え、防災・安全教育 (地歴、公民)、道徳教育 (公共、倫理)、領土・国土 (地歴・公民) 等が新学習指導要領の教育内容の主な改善事項として挙げられている。地歴・公民科に要求されているハードルは低くはない。

このような情勢の中、今年の全国学力テストを研究したグループが、その分析結果を文科省の専門会議で報告した。親の学歴や収入に関わらず、子どもの自制心や意欲などの「非認知能力」を高めれば、学力が上がる可能性が高いという報告である。思えば、地歴・公民科が社会科であった時代から、我々は生徒の興味・関心を引く教材を提供し、生徒と対話しながら授業を展開し、生徒の学ぶ意欲を高めてきた。昔であろうが「超スマート社会」であろうが、いつの時代も主体的に判断し行動できるアクティブラーナーを育成することは、地歴・公民科の使命であったと思う。そのためには、常に授業改善に心を配らなければならない。その意味でも、北海道高等学校教育研究会の果たす役割は大である。研究会に是非多くの地歴・公民科の教員の皆様の参加を得て、今、私たちに求められているものは何かを議論し、新しい時代に対応できる地歴・公民科教育の実現を目指して努力していきましょう。

●平成30年度高教研地歴・公民部会役員一覧

役 職		氏 名	学 校 名
部 会 長		中 坪 俊 博	札 幌 英 藍 高 校
副 部 会 長		岡 積 義 雄	市 立 札 幌 清 田 高 校
		佐 々 木 光 晴	恵 庭 北 高 校
		林 正 憲	野 幌 高 校
監 事		小 林 孝	大 麻 高 校
		木 部 悟	北 広 島 高 校
運 営 委 員	世 界 史	榊 原 康 文	市 立 札 幌 大 通 高 校
		菊 池 真 哉	札 幌 英 藍 高 校
	日 本 史	岩 間 洋 之	札 幌 西 高 校
		安 藝 宏 和	札 幌 北 陵 高 校
	地 理	鈴 木 良 伸	札 幌 月 寒 高 校
		吉 井 優 紀 彦	札 幌 東 陵 高 校
	現 代 社 会	伊 藤 慎 也	野 幌 高 校
		吉 川 敦 巳	千 歳 北 陽 高 校
	倫 理	渡 邊 昭 博	札 幌 手 稻 高 校
		倉 部 英 利 子	大 麻 高 校
	政 治 経 済	藤 倉 水 緑	市 立 札 幌 清 田 高 校
		下 川 欣 哉	岩 見 沢 西 高 校
事 務 局	局 長	矢 橋 佳 之	札 幌 英 藍 高 校
	次 長	秋 川 英 俊	
	局 員	伊 勢 敏 哉	
		原 田 宏 明	
		赤 石 克 久	
		北 村 智 弘	
		横 平 麻 紀 子	
遠 藤 秀 人			

●平成30年度高教研地歴・公民部会(教科別集会)のご案内

～ネットワークをつくり、授業力を高めましょう！～

1 研究主題

(1) 平成30年度地歴・公民部会研究主題

「広い視野に立ち、主体的に生きる資質・能力を育む学習指導の工夫・改善」

(2) 平成30年度専門部(分科会)研究主題

ア 世界史：課題を見出し、主体的取組を促す授業・評価の工夫・改善

イ 日本史：日本史教育の今日的課題と学習指導の工夫・改善

ウ 地理：新教育課程における地理教育の創造と、授業実践を通じた学習指導の工夫・改善

エ 現代社会：現代社会教育の今日的課題と授業・評価の工夫・改善

オ 倫理：他者と共によりよい社会の形成を担う人間を育てる倫理の授業展開

カ 政治経済：公民としての資質・能力を育成する「政治・経済」学習指導の工夫・改善

2 期 日 平成31年1月10日(木)

3 会 場 北海道札幌英藍高等学校

〒002-8053 札幌市北区篠路町篠路372番地67 TEL 011-771-2004

4 内 容 (時間帯は予定)

9:00 9:30 10:20 10:30 12:30 13:30 15:30 15:50

受付	開会式 総会 各研究会紹介 【体育館】	休憩	講演 (分科会ごと) 【会場は当日案内】	昼食	研究発表・協議 (分科会ごと) 【会場は当日案内】	閉会式
----	------------------------------	----	----------------------------	----	---------------------------------	-----

5 講演・研究発表・司会・記録の依頼 分科会運営委員が依頼します。ご協力をお願いします。

6 交通機関 本校は駐車場が狭いため、運営者・講師以外の駐車はお断りします。

また、近隣に駐車場がありませんので、公共交通機関でお越しください。

(1) JR学園都市線「拓北駅」北口から 徒歩18分

(2) JR学園都市線「あいの里教育大駅」から中央バス「あいの里・篠路線(22)」・「あいの里教育大線(麻24)」英藍高校下車

(3) 地下鉄南北線「麻生駅」・JR学園都市線「新琴似」下車「麻生バスターミナル」から中央バス「あいの里教育大線(麻24)」英藍高校下車

(4) 札幌駅前(東急前)から中央バス「あいの里・篠路線(22)」英藍高校下車

7 研究紀要56号の執筆依頼

(1) 教科に関することで、25,000字以内(25文字×1,000行)です。

(2) 申込みは、平成30年8月22日(水)までに事務局(札幌英藍高校)へ論文概要を送付してください。

なお、執筆のための研究調査経費を地歴・公民部会から一部補助することができます。詳しくは事務局にお問い合わせください。

●平成30年度地歴・公民科 各種研究会(夏の研究会)のご案内

～互いに学び、情報交換して、夏に教科指導力を高めましょう！～

研究会名称	北海道高等学校世界史研究会			
会長名	橋本達也(北海道北広島高等学校長)	事務局長	今井一吉	
事務局	北海道札幌真栄高等学校	札幌市清田区真栄 236-1	TEL 011-883-0465	
夏季研究会 のご案内	期日	平成30年8月3日(金)	会場	札幌市教育文化会館研修室 403
			参加料	2,000円
	9:30~10:00	開会式、総会		
	10:00~12:00	講演 1		
		演題 「資本論 150年：古典派経済学およびマルクスの視座、そして現代経済(学)の混迷」		
		講師 吉井 哲氏(名古屋商科大学教授)		
	13:00~14:00	講演 2		
		演題 「南北戦争後のアメリカ黒人の歴史－人種隔離制度、公民権運動、オバマ、そしてトランプ」(仮題)		
		講師 大森一輝氏(北海学園大学教授)		
	14:10~14:50	報告		
	テーマ 「伊達緑丘高校の挑戦-国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業『地理歴史科における科目相互の連携を図った授業実践の研究』の報告を中心に-」			
	報告者 岸 百合子 教諭(北海道伊達緑丘高等学校)			
15:00~16:20	研究協議			
	進行 吉嶺茂樹 教諭(北海道有朋高等学校)			
	モニター 北海道教育庁学校教育局指導担当局長 赤間幸人氏			
	16:20~16:30 閉会式			

研究会名称	北海道高等学校日本史研究会			
会長名	阿部孝則(市立札幌藻岩高等学校長)	事務局長	幡本将典	
事務局	市立札幌大通高校	札幌市中央区北2条西11丁目	TEL 011-251-0229	
夏季研究会 のご案内	期日	平成30年8月2日(木)	会場	札幌市教育文化会館研修室 403
			参加料	2,000円
	9:30~	総会		
	10:00~	講演		
		(1)演題 「太平洋世界と近世日本 ペリー来航の前提」		
		講師 横山伊徳氏(東京大学史料編纂所教授)		
		(2)演題 「近世後期における異国船問題と蝦夷地政策の展開」		
	講師 松本あづさ氏(藤女子大学准教授)			
15:40~	第3回幹事会			

研究会名称	北海道高等学校地理教育研究会			
会長名	加藤海(北海道石狩南高等学校長)	事務局長	佐久間直樹	
事務局	市立札幌新川高校	札幌市北区新川5条14丁目1-1	TEL 011-761-6111	
夏季研究会 のご案内	期日	平成30年8月1~2日	会場	ホテルライフオーブ札幌 他
			参加料	2,000円
	8月1日(水)			
	12:40~	集合(ホテルライフオーブ札幌)		
	13:00~	開会式		
	13:15~	巡検(札幌中央郵便局・道央札幌郵便局)		
	8月2日(木)			
	8:30~	集合受付(ホテルライフオーブ札幌)		
	9:10~	巡検(ヤマト運輸・ダイソー北海道RDC)		
	12:30~	閉会式		

研究会名称	北海道高等学校「倫理」「現代社会」研究会			
会長名	元紺谷 尊 広 (北海道稚内高等学校長)	事務局長	江 尻 憲 昭	
事務局	北海道大麻高等学校	江別市大麻ひかり町2番地	TEL 011-387-1661	
夏季研究会 のご案内	期 日	平成30年8月1日(水)	会 場	かでの2・7 520 研修室
			参加料	2,000 円
	9:30~10:00	総 会		
	10:00~11:30	講 演		
		演 題 「『生命』と『倫理』について(仮)」		
		講 師 児 玉 聡 氏 (京都大学文学部倫理学専修准教授)		
13:00~14:30	教育報告			
	テ ー マ 「ラオスの教育について(仮)」			
	報告者 太 田 麻奈美 教諭 (市立札幌旭丘高等学校講師)			
14:30~15:50	研究協議			
	主 題 「多様性社会」と「倫理」			
16:00~16:40	道外研修報告			
	テ ー マ 高等学校「倫理」における形成的評価の試み ープラトン初期対話篇『ラケス』を教材としてー			
	報告者 佐 藤 克 宜 教諭 (北海道岩見沢東高等学校)			

研究会名称	北海道高等学校政治経済研究会			
会長名	佐々木 光 晴 (北海道恵庭北高等学校長)	事務局長	伊 藤 智 大	
事務局	北海道千歳北陽高等学校	千歳市北陽2丁目10番53号	TEL 0123-24-2818	
夏季研究会 のご案内	期 日	平成30年8月6日(月)	会 場	札幌市男女共同参画センター (エルプラザ)4階中研修室
			参加料	2,000 円
		○テーマ 「北海道の未来を担う高校生のために、私たちは今、何ができるか」		
	10:30~12:30	講 演 1		
		演 題 「新学習指導要領「公共」と「政治・経済」」		
		講 師 澤 田 浩 一 氏 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官		
13:30~14:30	講 演 2			
	演 題 「北海道の主権者教育を創る～道政研からの知見～」			
	講 師 堂 徳 将 人 氏 北海商科大学教授			
15:10~15:50	実践報告			
	テ ー マ 「良識ある公民の育成を目指して」～主権者としての意識を涵養する授業実践～			
	報告者 佐 藤 友 洋 教諭 (北海道浦河高等学校)			
15:50~16:20	学習会報告・教材紹介			